



国労東京支部

2022年3月20日

第22号

国鉄労働組合東京支部機関紙

発行責任者 松田 恭明

編集責任者 佐藤 賢一

問題点を整理し闘いへ押し上げよう 第6回国労池袋地区分会大会開催

3月2日、南部労政会館において、第6回池袋地区分会大会が開催された。来賓にユニテッド闘争団の千田さん、J A L 闘争団（J H U）の宝地戸さんを招き、総勢で9人が参加した。冒頭、池田分会長から職場過半数代表者選挙の報告がされた。

ユニテッドの千田さんからは「昨年末、東京高裁で不当判決が出された。最高裁で争う」。J H U の宝地戸さんからは「国土交通省へも団交の申し入れをしたが拒否された。都労委で争う。会社と交渉だけしていても解決は難しい、三つの組合でやり方は違うが連携して闘っていく」とそれぞれ決意が示された。その後、参加者全員からひと言ずつ発言してもらい、コロナ禍で延期となっていた地区分会大会を無事に終えた。以下報告とする。

J E S S 池袋遺失→各改札に遺失物回収に行く。若い人と話をしていこうと思いついて、なかなかできていない。若い人も会社に対して不信感を持っていることを知ってほしい。

→J E S S 職場は、仕事場と休憩室が共用となっている。換気扇もないことを含めて改善を求めているが、なかなか改善されない。口を酸っぱくして言っていないといけないと思う。

池袋駅→今年に入ってJ E S S 職場へ異動となったが、本体と取り扱いが違っている部分もあり戸惑っている。車いすアプリの使い方もイマイチ。コロナになってから自分でも飲む機会を減らしてきたが、元職場の若手とは交流がある。



J E S S 高田馬場駅→2019年に全面委託となった。21年に職場の班へ異動。目白の遠隔も持つようになった。早稲田口は若い社員が多く、窓口に資料がない。全部タブレットに入っているため、年配者は苦労する。

→職場環境問題について、風呂が壊れてお湯が張れない。ブロック長に会うたびに言っているが、シャワーだけで何とかしてくれ、と言われる。掃除機一つ買うにも大変。

→コロナ関係について、2020年頃は日勤者は免除になっていた。家族が感染したら濃厚接触者と指定された。去年職場で一人感染したが濃厚接触者はゼロとなっている。結果的にはその人以外は感染しなかったが、感染対策が雑になってきている。

→早稲田口は資料がなくアプリを覚えるのは大変だが、若い人と少しずつ話せるようになってきた。

→コロナの感染対策については、もう一度会社に言っていく必要がある。

